



新年を迎えて

会長 長瀬 清

会員ならびにご家族の皆様には、揃って良い年をお迎えのことと謹んでお慶びを申し上げます。

いまだ明るい兆しの見られない北海道にも、今年は光がさすことを強く願っております。

昨年4月北海道医師会会長となり、まず統一地方選挙、続いて7月の参議院議員選挙と選挙対策に迫られました。参議院議員選挙では日本医師連盟の推す武見敬三議員の3期目の当選を目指して、多くの先生方の絶大な応援を得て戦いましたが、残念なことに議席を確保することができませんでした。今年施行される種々の医療制度改革と診療報酬改定を目前にして、強力な後押しを失い痛手でした。

平成13年聖域なき構造改革をスローガンに登場した小泉内閣による長年に亘る厳しい医療費抑制政策は、地方の医師不足、病院経営の悪化により地域医療の崩壊を進めました。医療難民、介護難民の現出、増加は社会問題化しています。国民の一番の関心事が医療・介護・福祉であることを考えると、政策を考え直すべきです。

小泉首相退陣後、若きリーダーである安倍首相に期待いたしましたが、経済財政諮問会議での学者・民間人による経済主体の方針は変わらず、内閣内の反社会的言動の頻発、杜撰な年金の扱い等の不手際が国民の不信をかい、7月に行われた参議院議員選挙では自民党は大敗北を喫し、与野党逆転という厳しい状況となりました。武見候補を落選させた原因となっています。9月12日国会開催冒頭に安倍首相が突如辞任、混乱の後福田首相が就任しました。衆議院は自民党多数、参議院は民主党多数という捻れ国会の出現は、重要法案成立を困難とし、極めて深刻な事態が続いています。

本年4月より、一昨年成立した医療制度改革関連諸法の多くが施行されます。後期高齢者医療制度、特定健診・特定保健指導、医療計画等です。期日が迫ってくるのに具体的姿がなかなかみえず、いらだちをおぼえました。

高齢者医療制度は、広域連合体が結成され体制は出来ましたが、事務局は各市町村からの寄せ集めであり、制度の一般市民への広報が不十分で、実施時混乱を生じなければよいかと懸念しています。

特定健診・特定保健指導は北海道保険者協議会において、やっと代表保険者も決まり、北海道医師会との間で集合契約交渉が行われつつありますが、健診料など細かなことの交渉まで至っていません。ITによる結果報告や請求事務について、検診機関のIT整備の問題もあります。

医療計画は、目下計画立案中で地域の中でどう構

成していくかまだ不透明です。

療養病床再編・廃止の問題は北海道における本当の必要病床数の確かめが基本で、最初から38分の15で計算するわけにはいきません。

まだまだ多くの問題が山積していますが、北海道では医師不足からくる地域医療の崩壊を何とかしなければなりません。高橋知事は春の選挙で、如何に地域で医療の必要性が求められているかを実感し、当選後最初に医療への取り組みにかかりました。地域医療対策協議会の会長に自ら就任し、庁内には「地域医師確保推進室」を設け積極的に対策に乗り出しています。

北海道医師会でもドクターバンク事業への応援、政府・自民党への働きかけ、道議や国会議員へのロビー活動、道議会より国への医療問題解決要望書提出要請、医師会事業活動等幅広く活動しています。

医師会の事業を行うに当たって会員との接触は重要と考えています。昨年は各医師会とも創立60周年で、それぞれ記念式典を行っております。可能な限り出席しご挨拶をさせて頂きました。そういう場を与えて下さった医師会のご配慮に心から感謝しております。今年もまた許す限り地方の先生方と接したいと考えています。

4月からの診療報酬改定作業がいま急ピッチで進められています。3回連続のマイナス改定が医療を疲弊させ、地域医療を崩壊に導き、もはやマイナス改定は許されません。日本医師会を中心に積極的なロビー活動や行政への働きかけでマイナス改定はなんとか阻止できました。しかしその内容によっては不満の声が大きく上がる改定になるかもしれません。4月の日医代議員会が大揺れになるようなことがないように祈っています。

この2年間の日医は高く評価されるものであったと考えます。問題に対する反応は素早く、医師会の存在を認めさせるものであります。医師会のイメージアップをはかる広報活動も評価されます。日医総研の調査研究を基とした日医の主張、提案も徐々に受け入れられるようになってきたと感じられます。日本の国を動かせるような強い日本医師会を作るために、みんなで力を合わせ日本医師会を支えていきたいものです。

山積した難題を一つ一つ解決するに当たって、北海道医師会会員の皆様のお力添えが必要です。今年もよろしくご支援、ご協力の程心からお願い申し上げます。

会員ならびにご家族の皆様のご健勝とご多幸を祈念致しております。

CONTENTS

北海道医報
平成20年1月1日 第1072号

| | | |
|-------------------------------|-------|----|
| 年頭の辞／新年を迎えて | 長瀬 清 | 2 |
| 年頭所感 | 唐澤 祥人 | 4 |
| 年頭所感 | 高橋はるみ | 5 |
| 医の倫理綱領 | | 7 |
| 報告／日本の医療を守る道民協議会 第6回総会 | 直江寿一郎 | 8 |
| 第4回 医学部学生と女性医師の語る夕べ | | 10 |
| 生涯教育シリーズⅩⅧ 認知症／1. 認知症の特集にあたって | 小山 司 | 11 |
| 税務相談室／支度金・損害賠償金 | 中村 孝一 | 12 |
| 随筆／医事・文談 | 平岸 三八 | 13 |
| 北海道医歌人会詠草 | | 14 |
| 特集／新春随想 | | 15 |
| 道医の動き | | 37 |
| 医学会・医学講演会等 開催情報 | | 38 |
| 中央38 道南40 日胆40 空知41 道北41 道東42 | | |
| 会議室／第16・17回常任理事会 | | 48 |
| 売貸医院・医師招聘情報 | | 54 |
| 新規指定医療機関 | | 57 |
| 訃報 | | 58 |
| 道医師国保の頁 | | 60 |
| 役員訪問／藤原秀俊 常任理事 | | 62 |
| 季節風／医療提供体制 | 藤原 秀俊 | 64 |

お知らせ

- グループ保険のご案内36／『医療法人制度改革について』の日医ホームページ37
- 認定健康スポーツ医制度 再研修会一覧42／認定産業医制度 研修会一覧43
- 電子メールによる会員への情報提供43／道医報へのご投稿等について44
- ホームページフォトギャラリー作品募集45／個別融資相談会の開催について46
- 道医母体保護法医師指定の取扱規程ならびに細則の改正46
- 第42回 北海道ドクターズゴルフ大会 開催予告53

| | | | | | |
|-----------|-------------|------------|-------------|----|-----------|
| 北海道医師会会員数 | 8,434名 (+4) | うち日本医師会会員数 | 6,237名 (+2) | | |
| A | 2,622名 (±0) | B2 | 4,455名 (+4) | C2 | 186名 (±0) |
| B1 | 548名 (+1) | C1 | 97名 (±0) | C3 | 526名 (-1) |

平成19年11月31日現在 () 内前月比

作品紹介

北海道美の遺産

ほんま かんさい 幌都の冬

1894-1959(明治27-昭和34)年

新潟生まれ。本名、浅田藤松。
1949(昭和24)年、紙本彩色・額85.3×115.2。1949年の院展(日本美術院の公募展)入選作。
明治41年、14歳のときに余市町の本間海産物問屋に引き取られるが、家業を嫌い、大正3年に画家を志して上京、太平洋画会研究所で学ぶ。帰札後、肖像画で生計をたてるかたわら、北海道美術協会(道展)に第1回展より出品。昭和2年の第3回道展から日本画に転向、洋画的な表現で注目され、翌年には会員に推されて

いる。昭和34年64歳で亡くなる前年まで、北海道の自然と人々の営みを描いて連続11回の院展入選を果たし、道内画壇の牽引者として活躍した。

◇ ◇ ◇

『北海道医報』の表紙は今月から、北海道立近代美術館のご協力により、同館の所蔵作品を掲載してまいります。「北海道美の遺産」と題し、道民共有の芸術作品を将来に遺す活動を支援します。道立近代美術館は1977(昭和52)年7月に開館。昨年で創立30周年を迎え、北海道における美術文化の中心的な役割を果たしております。